

播かれた一粒の麦

竹田駅園 池上一郎文庫 劉耀祖

まことに小さな駅がある。南回り線（高雄 - 台東）の竹田駅、日本時代の名がそのまま残っている。駅一帯は竹田駅園と名付けられ、そこに「池上一郎博士文庫」という一棟がある。

ここには池上博士をはじめ、日本人から贈られた書籍五千冊があり、台湾の人たちに愛読されている。なぜ、この地に「池上文庫」が建てられ、いまなお、池上博士が敬愛されているのか。この文庫の創立に深く関わりあった劉耀祖氏にうかがってみた。

（インタビュー 林慧児）

野戦病院長として赴任

- 池上博士はどんな方ですか

戦前、台湾におられた時の池上先生は存じません。私がお目にかかったのは戦後で、日本留学の時です。日本の敗戦にともなって、池上先生は帰国され、東京・池袋に近い東長崎で、内科の医院を開いていらっしゃいました。そこに尋ねていきました。

私と池上氏の「接点」は、竹田に住む黄鳳蘭さんです。その黄さんから頼まれて、日本で池上先生を探しました。

池上一郎氏、一九一一年一月十六日東京生まれ。府立一中一高（旧）東京帝国大学（東大）医学部卒業という。当時でも超工リートコースを歩み、軍医となった。一九四三年、軍医少佐として高雄州竹田庄（村）にあった第一九七一二部隊の野戦病院長として派遣された。この病院は現在、竹田国民小学校になっている。池上先生は四六年夏、帰国した。

- わずか一年半ほどしか竹田におられなかったのですね。

そうです。でも池上さんは、医療設備も医薬品も不足したなかで、日本の兵士と同じように、内科外科の十三人の医者とともに村の人の治療を引き受けられました。アメリ

カ軍の竹田村への爆撃で、死者六人、負傷者多数を出したが、池上先生は献身的な治療を続けられました。当時、日本の軍人は、いばっていたそうですが、池上先生はおだやかな方だったといえます。

こんなエピソードもあります。池上先生は、自転車の練習中に、誤って醤油を運んでいた村の人にぶつかり、醤油が全部こぼれてしまったのですが、先生は、丁寧に謝ってちゃんと弁償したようです。そんな万でした。

- それで、日本に留学にこられた劉さんはすぐお目にかかられましたか。

いいえ。探すあてもなく、どうすればいいかわかりませんでした。新聞の投書欄に池上さんの住所を教えてほしいと書きました。すると、部下の方から、先生の住所と電話番号の連絡がありました。すぐ、東長崎の医院にうかがいました。本当に、やさしく思いやりのあるホームドクターで、ここでも献身的なお仕事を続けていました。私との関係は、ここからスタートしました。黄さんもよろこびました。池上先生は野戦病院宿舎ではなく、黄さんの家の部屋を借りて住んでいました。その部屋はいまでもそのまま保存されています。

戦後の訪台はなかった

- 戦後、池上先生は、何度か台湾にお出でになりましたか。

一度もお出でになったことはありません。池上先生は、ご性格から、熱心に患者の面倒をみておられたのです。

- 一度もですか。すると、台湾におられたのは一年半余り

そう、です。責任感の強い方ですから。一日としても病院をあけることができませんでした。八十四歳で病院をやめられる時には、患者のひとりひとりのカルテを詳細に記して、友人のお医者さんにバトンクッチをされる、というような方でした。この間、先生は台湾の人たちのことを思い、台湾からの留学生の支援もつづけていたようです。

匿名で奨学金寄付

- 退職されたあと、どうされましたか？

あくまでも匿名の方法で、台湾の地方の文化の橋渡しのため、奨学金や日本の歴史・地理や文化関係の本を竹田郷（村）の頼耀熙村長に寄贈したのです。頼さんは、台湾も潮流が変わり、日本の書籍を集めて一般に見てもらえるようになったので、記念文庫の設立を進めました。ところが問題があったのです。

- どんな問題ですか。

竹田駅なんです。鉄道は一九三〇年代に入って赤字が膨らみ簡易駅（無人駅）になってしまいました。かつての米の集散地として賑わった竹田（清朝時代は「頓物」といわれた）も、車社会を迎えて、さびれてしまい、台湾有線鉄路局（日本の運輸省に相当）が老廃の竹内駅を廃止することを決めたのです。それで、竹田村の陳龍雄・村会代表委員会主席や地元の有識者が集まり、鉄路局や行政院（内閣）の文化建設委員会（文化庁に相当）に、駅舎の保存を陳情しました。

- 結果は成功でした？

はい。文化建設委員会は、竹田駅の保護に、二四九五万元（約一億二千四百万円）を計上し、鉄道文化駅園区を認定しました。これが「竹田駅園」です。そして池上先生や日本の篤志家の方から寄贈していただいた五千冊の本で「池上文庫」をつくりました。

- 池上先生は、この文庫の設立をご存知だったのですね？

「竹田駅園」は、二〇〇一年の一月十六日、池上先生のご誕生日に合わせて設立祝典が開かれました。老齢のため、ご出席できなかった。池上先生は贈られたビデオテープをご覧になって、とても喜ばれたそうです。池上先生は、その二ヶ月後、お亡くなりになりました。ちょうど九十歳でした。

- 「池上文庫」の現状はいかがですか。

いま文庫の会員は約 150 人、ボランティアの方々によって運営されています。国家休日と月曜日が休館、火 - 金曜日は午前八時半から十一時半、午後は二時 - 四時、土・日曜日は午前中だけで、午後休館です。

日本語を読める人たちが通ってきます。時には高雄市に住む日本人も姿を見せます。いま竹田駅園が属する屏東県には、国立大学三校、私立大学四校合計七校があります。それぞれ本語科を持っていますが、これらの教師や学生に呼びかけて「日本語人会」をつくりたい、と思っています。その人たちに、この「池上文庫」を利用してもらいたいのです。こうしたことが、日本と台湾に播かれたささやかな麦の一粒を、実あるものとすることと信じているからです。

リュウヤオズ

劉 耀 祖



表面に出たがらないのは、池上先生も劉耀祖氏も同じである。

縁の下の力持ちに徹するのだ、という。劉氏は、台湾大学政治学科を終えたあと、早稲田大学大学院に学び「マーケット・リサーチ」を専攻された。現在は「啓新療所」という健康検査センターの理事長。

72 歳。

引用元：

THIS いず 台湾 2003 年第 6 号 vol.6

発行所 「THIS いず 台湾」編集委員会

発行人 謝憲治 編集長 林慧兒